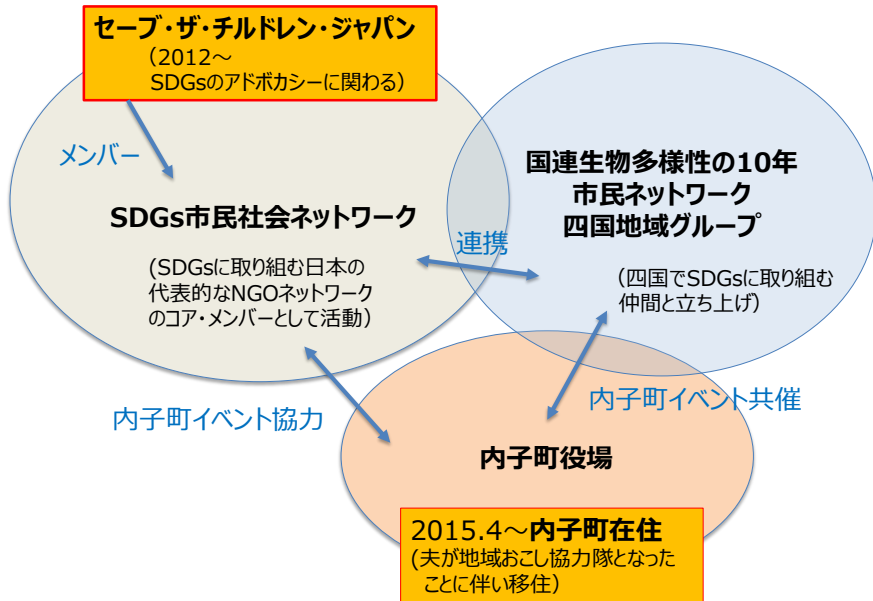



SDGs達成に向けた地方自治体の取り組み ～愛媛県内子町の取り組みを例に～



2017年10月20日（金）FASID BBLセミナー
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン/SDGs市民社会ネットワーク/
国連生物多様性の10年市民ネットワーク四国地域グループ
堀江由美子


なぜ、セーブ・ザ・チルドレンのスタッフが内子町のSDGsに関わっているのか？





本日の講演内容

1. SDGsの概要と日本の実施状況
2. 内子町と持続可能なまちづくり
3. 四国および内子町におけるSDGsの取り組み
4. 地方自治体でSDGsに取り組む意義と課題



本日の講演内容

1. SDGsの概要と日本の実施状況
2. 内子町と持続可能なまちづくり
3. 四国および内子町におけるSDGsの取り組み
4. 地方自治体でSDGsに取り組む意義と課題

持続可能な開発目標（SDGs）とは？

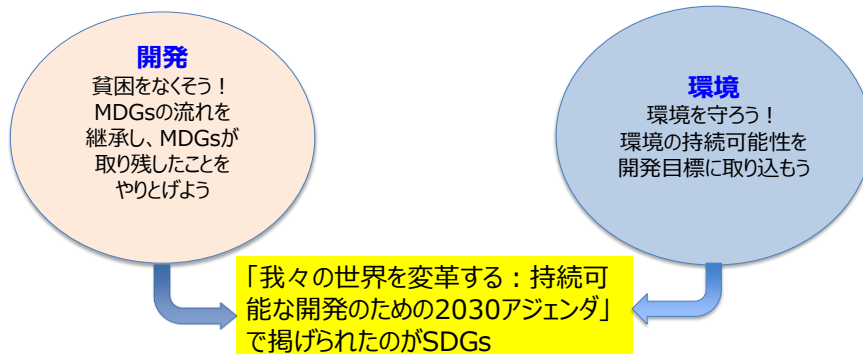


2015年9月25日、国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の一環で合意された世界が2030年までに達成を目指すべき17の目標

5

開発と環境の流れが融合してできたSDGs

- MDGsに代わる国際的な開発目標の取り決めの必要性
- 「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」における持続可能な開発目標（SDGs）の策定合意



6

| 持続可能な開発目標 (SDGs) : 17目標と169ターゲット | | | |
|----------------------------------|--|----|---|
| 1 | あらゆる場所のあらゆる形態の 貧困 を終わらせる。 | 10 | 各国内及び各国家間の 不平等 を是正する。 |
| 2 | 飢餓を終わらせ、 食料安全保障 および 栄養改善 を実現し、 持続可能な農業 を促進する。 | 11 | 包摂的で安全かつ強靭 (レジリエント) で 持続可能な都市 及び 人間居住 を実現する。 |
| 3 | あらゆる年齢のすべての人々の 健康的な生活 を確保し、 福祉 を促進する。 | 12 | 持続可能な生産消費形態 を確保する。 |
| 4 | すべての人々に包摂的かつ公正な 質の高い教育 を確保し、 生涯学習 の機会を促進する。 | 13 | 気候変動 及びその影響を軽減するための 緊急対策 を講じる。 |
| 5 | ジェンダー平等 を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う。 | 14 | 持続可能な開発のために 海洋・海洋資源を保全 し、持続可能な形で利用する。 |
| 6 | すべての人々の 水と衛生 の利用可能性と持続可能な管理を確保する。 | 15 | 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進 、 持続可能な森林の経営 、 砂漠化への対処 、ならびに 土地の劣化の阻止・回復 及び 生物多様性の損失を阻止 する。 |
| 7 | すべての人々の、 安価かつ信頼 できる 持続可能な近代的エネルギー への アクセス を確保する。 | 16 | 持続可能な開発のための 平和で包摂的な社会 を促進し、すべての人々に 司法へのアクセス を提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で 説明責任のある包摂的な制度 を構築する。 |
| 8 | 包摂的かつ持続可能な経済成長 及びすべての人々の完全かつ生産的な 雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する。 | 17 | 持続可能な開発のための 実施手段 を強化し、 グローバル・パートナーシップ を活性化する。 |
| 9 | 強靭 (レジリエント) なインフラ構築 、 包摂的かつ持続可能な産業化 の 促進 及び イノベーション の 推進 を図る。 | | |

世界を変革し、理想の未来をつくるための目標

MDGsで達成できなかった課題
 貧困、保健、教育、水・衛生、ジェンダーなど

経済的な課題
 適切な良い仕事、経済成長、新しい技術とインフラ
 収入の不平等など

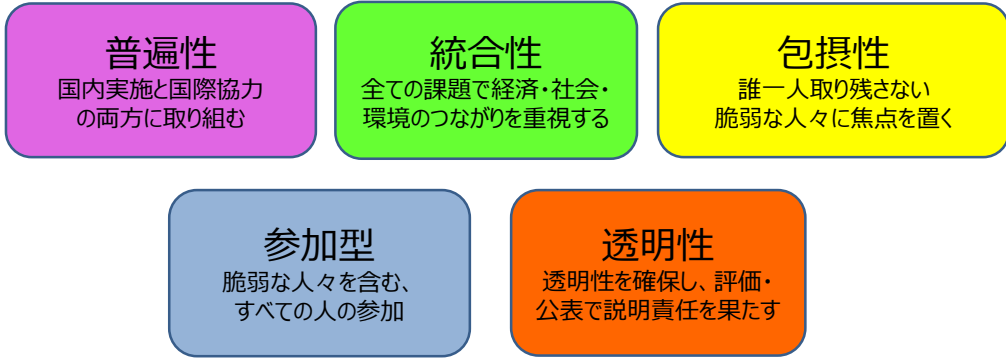


環境の課題
 責任ある生産と消費、
 気候変動、生物多様性

平和、暴力撤廃、参加と透明性

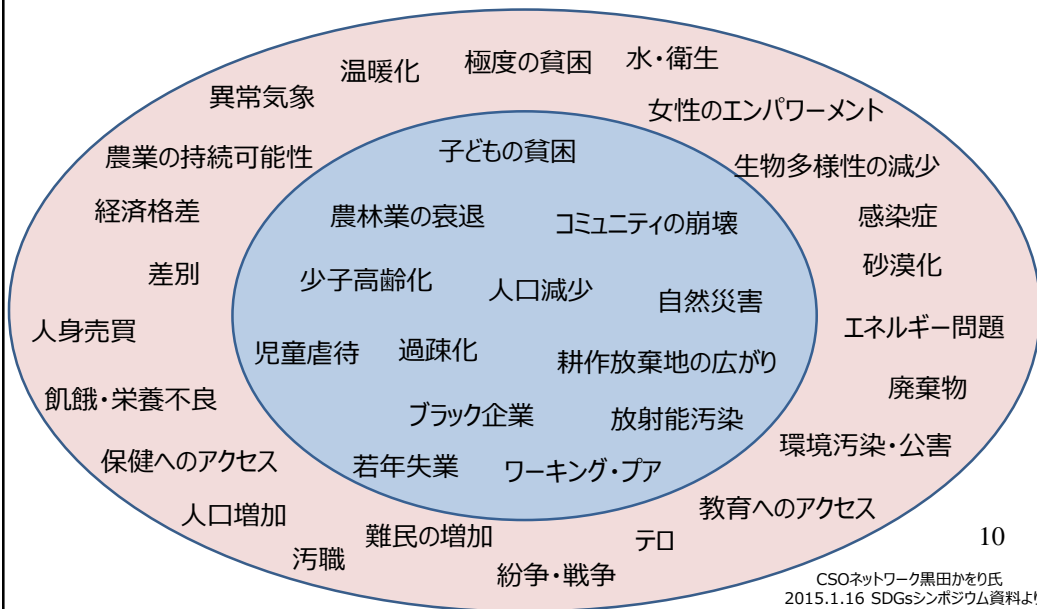
グローバル・パートナーシップ

SDGsの肝は、5原則



9

地球規模と国内、異なるセクター…課題は互いにつながっている



10

CSOネットワーク黒田かおり氏
2015.1.16 SDGsシンポジウム資料より

SDGsの実施に向けた日本の動き

- 2016年5月20日、安倍総理を本部長とした「SDGs推進本部」が発足
- 「SDGs実施指針」の策定開始
- 9月12日 第1回SDGs推進円卓会議の開催
- 10月19日～11月1日 パブリックコメントの実施
- 11月11日 第2回SDGs推進円卓会議の開催
- 12月22日 第2回SDGs推進本部会議で「SDGs実施指針」発表
- 2017年5月25日 第2回SDGs推進円卓会議の開催
- 6月9日 第3回SDGs推進本部会議
- 7月10-19日 ハイレベル政治フォーラム@国連で国家自発的レビュー
- 9月21日 SDGs推進本部が「ジャパンSDGsアワード」の公募開始



安部総理がSDGs推進本部の発足を発表



HLPFで岸田元外相とピコ太郎がSDGsをプロモーション

11

日本のSDGs実施指針

ビジョン

「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」

8つの優先課題

People 人間

1 あらゆる人々の活躍の推進

2 国内外における健康・長寿の達成

Prosperity 繁栄

3 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

4 質の高いインフラ、強靱な国土の整備

Planet 地球

5 省・再生エネルギー、気候変動対策、循環型社会

6 生物多様性、森林、海洋等、環境の保全

Peace 平和

7 平和・安全・ガバナンス

Partnership パートナーシップ

8 SDGs実施推進の体制・手段

実施のための主要原則

① **普遍性**：国内実施と国際協力の両面で行き届く

② **包摂性**：誰一人取り残さない、人権尊重とジェンダー平等、脆弱な立場におかれた人々に焦点

③ **参加型**：脆弱な立場におかれた人々を含むあらゆるステークホルダーの参画重視

④ **統合性**：経済・社会・環境の三分野で、複数のゴール・ターゲットの相互関連性・相乗効果を重視

⑤ **透明性と説明責任**：取組状況を定期的に評価し、公表・説明

12

SDGs実施指針におけるNPO/NGOおよび地方自治体の扱い

5 推進に向けた体制

(3) ステークホルダーとの連携

2030アジェンダの実施、モニタリング、フォローアップ・レビューに当たっては、省庁間や国と自治体の壁を越え、公共セクターと民間セクターの垣根も越えた形で、NPO・NGO、有識者、民間セクター、国際機関、各種団体、地方自治体、議員、科学者コミュニティ、協同組合等、広範なステークホルダーとの連携を推進していくことが必要である。

(NPO・NGO)

…「誰一人取り残さない」未来を目指すビジョンの実現を目指す上で、脆弱な立場にある人々との協働、国際的・地域的ネットワークを活かした問題提起や政策提言等において、NPO・NGOが果たす役割は極めて大きい。政府として、NPO・NGOや更には幅広い地域住民、民間組織や地縁型コミュニティ組織もSDGs実施の重要なパートナーと位置づけ、効果的な連携を一層推進していく。

(地方自治体)

SDGsを全国的に実施するためには、広く全国の地方自治体及びその地域で活動するステークホルダーによる積極的な取組を推進することが不可欠である。この観点から、各地方自治体に、各種計画や戦略、方針の策定や改訂に当たってはSDGsの要素を最大限反映することを奨励しつつ…SDGs達成に向けた取組を促進する。



地方創生に向けた自治体SDGs推進事業（内閣府地方創生推進室）
「地方創生SDGs未来都市モデル事業」
平成30年度内閣府概算要求額11.8億円

13

本日の講演内容

1. SDGsの概要と日本の実施状況
2. 内子町と持続可能なまちづくり
3. 四国および内子町におけるSDGsの取り組み
4. 地方自治体でSDGsに取り組む意義と課題

内子町ってどんなところ？

平成17(2005)年1月1日、旧内子町、旧五十崎町、旧小田町の3町が合併し、新「内子町」誕生



9月23日「四国版ローカルSDGsをつくろう」
山岡総務課長プレゼン資料より

15

内子町の多様な顔



16

内子町の町並み保存運動



昭和30年頃



昭和40年代後半頃



現在



100年前の花嫁行列の再現



地域おこし協力隊OBIによる古民家ゲストハウス

町並み保存運動の歩み

- 昭和40年代後半に住民から町並み保存を提唱する声があり、保存運動開始
- 昭和51年、行政のキーパーソンが担当に
- 先進地視察や研修、勉強会を重ね、メディアに取り上げられることで気運が高まる
- 昭和57年に重要伝統的建造物群保存地区に選定
- 内子座の復元、村並み保存運動、ドイツ・ローテンブルク市との交流にも発展

● 高齢化が課題だが、近年新しい動きも 17

内子町のまちづくり

- 第1期内子町総合計画 (平成19年度～26年度)
- 第2期内子町総合計画 (平成27年度～36年度)

内子町がめざす将来像

町並み、村並み、山並みが美しい
持続的に発展する町

キャッチフレーズ

- キラリと光るエコロジータウン内子
- 住んでよし、訪ねてよし、美(うま)し内子

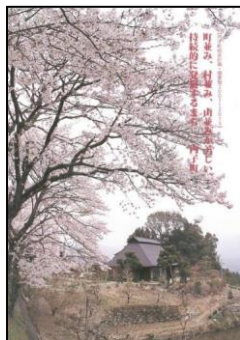


内子町総合計画－現状、課題および戦略

第1期 平成19年度～26年度

●時代の潮流

- ・地方分権の推進
- ・官から民への移行
- ・環境重視と健康志向
- ・福祉、医療、年金制度の改革
- ・代替エネルギー開発
- ・観光立国と景観まちづくり



●内子町のまちづくりの課題

- ・地域の魅力を高め、人口減少を食い止める
- ・産業改革に取り組み、多様な雇用を創出する
- ・町民の自治力を強化し、安全・安心の地域をつくる



●3つのまちづくり戦略と10のシンボル・プロジェクト

1.地域の魅力を高め人口減少をくい止める

- ①うちこんかいプロジェクト
- ②エコエコプロジェクト
- ③景観まちづくりプロジェクト
- ④内子教育改革プロジェクト

2.産業改革と多様な雇用の創出

- ①農林業再生プロジェクト
- ②内子ツーリズムプロジェクト
- ③元気商店街プロジェクト

3.自治力の強化と安全安心の地域をつくる

- ①健康づくりプロジェクト
- ②自治システム構築プロジェクト
- ③行政改革プロジェクト

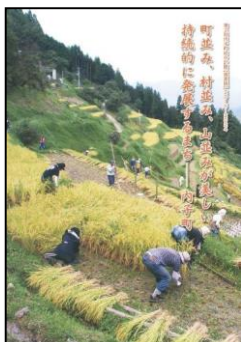
19

内子町総合計画－現状、課題および戦略

第2期 平成27年～36年度

●内子町を取り巻く環境

- ・人口急変時代
- ・コンパクトなまちづくり
- ・安全、安心のまちづくり
- ・情報産業革命
- ・エネルギー大転換



●内子町のまちづくりの課題

- ・農林業の新たな挑戦
- ・着地型観光の体制づくり
- ・子育て支援の強化
- ・情報通信技術の活用
- ・コミュニティの再構築



●2つのまちづくり戦略と10のシンボル・プロジェクト

1.稼ぐ力のある内子町 2.いつまでも住み続けられる内子町

- ①まちなかりバイバルプロジェクト
- ②いかざきワンダーランド・プロジェクト
- ③小田流ライフスタイル・プロジェクト
- ④うちこ森業プロジェクト
- ⑤安全・安心まちづくりプロジェクト
- ⑥美しい内子プロジェクト
- ⑦着地型観光プロジェクト
- ⑧子育て支援プロジェクト
- ⑨情報化推進プロジェクト
- ⑩地域エネルギー・プロジェクト

20

内子町環境基本計画

平成27年～36年 第2次環境基本計画

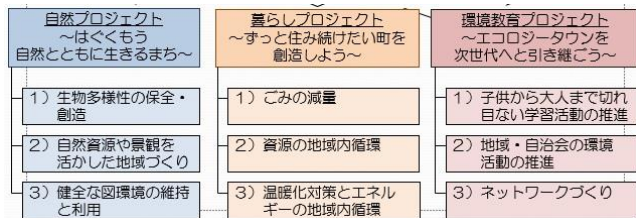


3つの
戦略

- エコミーとエコロジーの融合
- 選択と集中による効果的な実践
- 地域の担い手育成

3つの
柱

- 自然～はぐくもう自然とともに生きるまち
- 暮らし～ずっと住み続けたいまちを創造しよう
- 環境教育～エコロジータウンを次世代へ引き継ごう



内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略

【目標1】 稼ぐ力のある内子町

今後も厳しい財政状況の中で、選択と集中により行政の効率化を高め、町民の豊かな生活を守り、地域の元気を維持していくために、一つ目の目標として「稼ぐ力のある内子町」を掲げます。

- 内子町の基幹産業である第1次産業（農林業）の振興を図る。特に、町の面積の約8割を占める森林資源を新たな「森業」という視点で捉え、林業6次化に取り組む。
- 豊かな自然、特色ある町並みと商業空間、優れた企業人を輩出した創業の遺伝子など、内子ならではの地域資源をさらに磨き上げる。

【数値目標】

転出超過（社会減）を半分に縮小する

【目標2】 住み続けられる内子町

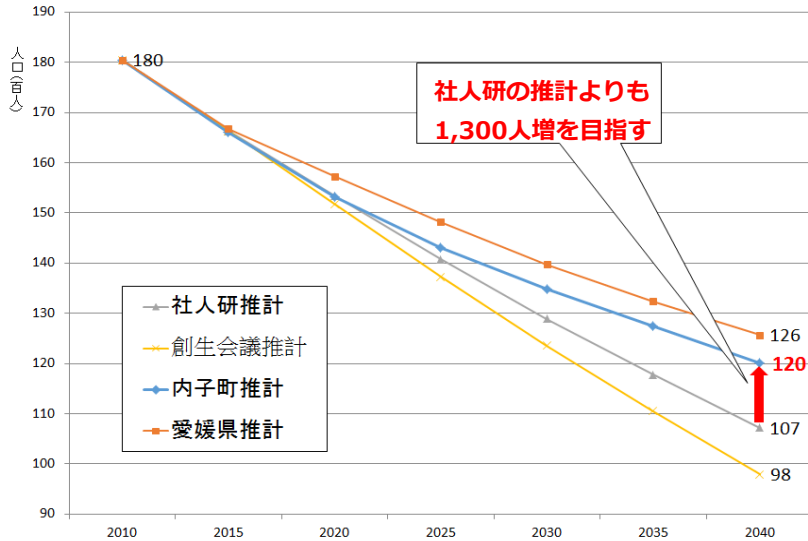
コミュニティの強化や公共交通機関の整備、安全・安心の取り組み等により、農山村部への人々の定着をめざすために、二つ目の目標として「住み続けられる内子町」を掲げます。

- 町民と行政がそれぞれの情報を共有し、よりよい連携・対応が取れる体制づくりに努める。
- 移住・定住施策に努めるとともに、若い世代の出会いや子育て、出産、育児、教育を支援する。● 先人たちの築いた伝統や文化、美しい景観、人と人との温かい関係など、内子町に対する愛着や誇りが持てる施策を多様に展開する。

【数値目標】

合計特殊出生率を1.6に引き上げる

減少する人口に対して－内子町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン



23

9月23日「四国版ローカルSDGsをつくろう」山岡総務課長プレゼン資料より

内子町で「取り残されている人」は誰か？

■ 内子町の生活保護受給者

H28で97世帯、118人 - 全世帯数7,229世帯の1.3%
(全国平均はH26で1.7%、最も多い大阪市は5.66%)

■ 要保護・準要保護認定の小中学校の子ども数

44世帯、63人

■ 75歳以上の単身高齢者の数

男性280人、女性1,152人 - 男性は全体の12%、女性は28%が単身世帯

■ 重度心身障害者の数

約500人

■ ドメスティック・バイオレンス、児童虐待

■ 自殺者が比較的多い(?) - 精神疾患、経済的困難など

■ 部落差別が一部地域に残っている - 結婚差別など



24

2016.10 保健福祉課への聞き取りより

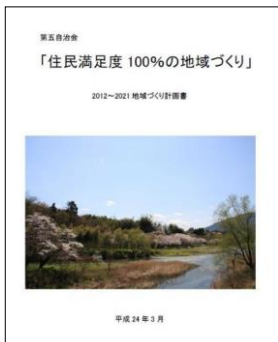
事例1 自治システム構築プロジェクト



住民参加・住民への情報提供

内子町の41の自治会がそれぞれ「地域づくり計画書」を策定し、自治会と行政が協働する仕組みをつくりながら、地域防災、景観まちづくり、健康づくりなど、活力ある活動を展開。広報誌や議会だよりで町の情報を積極的に発信。

⇒「地域づくり計画書」が、町の総合計画の基礎に



住民参加型の「地域づくり計画書」策定、「地域づくり事業」実施

読みたくなる広報誌、議会だより

25

事例2 農林業再生プロジェクト



道の駅「うちこフレッシュパークからり」の取り組み



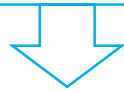
- **季節の農作物にあわせて加工商品を開発販売**
内子町内の農産物販売額の約15%を売り上げる拠点に発展
- **ITを導入して鮮度を追求することで、安全安心な農産物提供システムを構築**
出荷する地場農産物にトレーサビリティやPOSシステムを導入
- **女性のエンパワーメント**
出荷者の7割は女性が占め、経済的・社会的自立に寄与
- **60人の新たな雇用創出**

⇒平成26年には全国モデル道の駅に選定

26

内子町の持続可能なまちづくりの考え方

1. 住民が主役のまちづくり
2. 歴史と文化を大事にするまちづくり
3. 美しい景観や環境を大事にするまちづくり
4. 多様な産業を創出するまちづくり
5. 世界に開かれた賑わいのあるまちづくり



持続的に発展するまち



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

27

9月23日「四国版ローカルSDGsをつくろう」山岡総務課長プレゼン資料より

本日の講演内容

1. SDGsの概要と日本の実施状況
2. 内子町と持続可能なまちづくり
3. 四国および内子町におけるSDGsの取り組み
4. 地方自治体でSDGsに取り組む意義と課題

四国におけるSDGsの取り組み

- ・2015年11月 愛媛県内子町でSDGsシンポジウムを開催
- ・2016年1月 国連生物多様性の10年市民ネットワーク四国地域グループ立ち上げ
- ・2016年度中に、四国4県（香川⇒内子町⇒高知⇒徳島）でSDGs会議を実施
- ・この他、「パブコメ勉強会」や「SDGs実施指針勉強会」なども実施
- ・2017年9月 内子町で「四国版ローカルSDGsをつくらう」ワークショップ



11月19日：香川県坂出市
企業と地域のつながり・役割



12月4日：高知県高知市
高知の課題とSDGsのつながり



2月5日：徳島県阿南市
四国4県の取り組みと他地域の
取り組みの共有、ディスカッション

29

内子町におけるSDGsの取り組み

**役場との共催により、全国に先駆けてSDGsイベント、
役場向け研修等を実施**

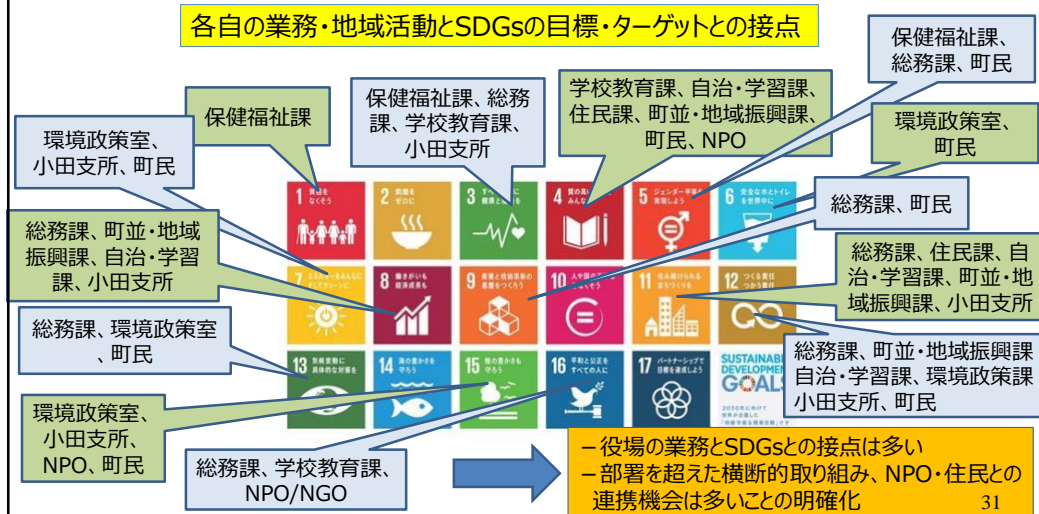
- ◆2015年11月 一般向けフォーラム「ローカルSDGs? in 内子町」
- ◆2016年11月 内子町役場職員研修「SDGsを内子町で考える」
(◆県立小田高校で「地域デザインのプランニング～SDGsの観点から」
ワークショップ)
- ◆2017年9月23・24日 「四国版ローカルSDGsをつくらう」ワークショップ



30

2016年11月28日 役場職員研修「SDGsを内子町で考える」

- ◆ **参加者**：内子町役場の各課より18名が参加（総務課、環境政策室、町並・地域振興課、税務課、保健福祉課、保健福祉課、自治・学習課、学校教育課、小田支所）その他NPO/NGO、町民、メディア計27名
- ◆ **特徴・課題**：地域の伝統文化の重視、エコロジータウンやESDの推進、高齢化、過疎化など



2017年9月23・24日 ワークショップ 「私たちが目指す地域づくり－四国版ローカルSDGsをつくろう」

● 「四国版ローカルSDGs」策定の試み

1. これまでの四国4県の取り組みで出てきた「四国の課題」に対し、関連するSDGsをマッピング
2. 1. の結果をもとに、SDGsの各目標に関連する「課題」をマッピング
3. 足りない課題を追加
4. 各目標・課題ごとに、解決策を検討
5. 解決策を行政・市民・企業などのアクターごとに分類

⇒ これをもとに、12月に高知でさらに深めるイベントを予定

⇒ 四国内の自治体や市民組織が地域でSDGsを考える際に参照できるガイドラインを作成



国内外に発信された内子町の取り組み

- 2017年6月に環境省発行の「環境白書」で取り組みの紹介
- 2017年7月の国連ハイレベル政治フォーラムにて、SDGsの進捗に関する日本政府の報告書で紹介

事例 内子町におけるSDGs達成に向けた取組

愛媛県内子町では、2015年11月に、「ローカルSDGs? 内子町」が開催されました。このフォーラムでは、SDGsの概要やSDGsが地方にもたらす意義、着地型観光、エコロジータウン構想等、内子町のまちづくりとSDGsについて報告が行われ、これからの我が国や内子町のような地方自治体を取り組むべき課題や方向性について議論が深められました。

また、内子町の取組がSDGsのどのゴールと関連するかの照らし合わせ（マッピング）が行われました。例えば、内子町の独自の自治会制度において10年先の未来を描く「地域づくり計画書」を全41自治会が策定し、町の総合計画の基礎としています。この取組は、「ゴール11（安全な都市）」、「ゴール16（法の支配等）」、「ゴール17（パートナーシップ）」に合致していると考えます。このほか、豊富な木質資源を活用した木製ベットの普及は「ゴール7（エネルギー）」に合致した取組と言えます。

また、2016年11月には、内子町役場職員を対象としたSDGsの勉強会「持続可能な開発目標（SDGs）を内子町で考える」が開催され、各課より18名が参加し、それぞれの業務とSDGsのゴールとの関連をワークショップで議論しました。

内子町では、「エコロジータウン・内子」をまちづくりのキャッチフレーズに掲げ、自然にやさしい、生活にやさしい環境政策に取り組んできました。内子町が目指すまちづくりの先には、SDGsが掲げる目標が見えてきます。

【ローカルSDGs? in 内子町】の様子

資料：内子町

Furthermore, as a model example in towns and villages, the town of Uchiko, in Ehime Prefecture, whose population is only around 18,000, hosted a meeting with town residents, local government staff, researchers and NPO/NGO staff to come up with ways to achieve the SDGs shortly after the adoption of the SDGs. Uchiko has a specific vision for its future, namely "A city that cherishes sustainable development with beautiful villages, towns and mountains." Although the town is dogged by serious challenges, including the decline of agriculture and forestry coupled with a diminishing and ageing population, it strives to maintain a sustainable and comfortable town by taking measures to adapt to the changing dynamics of the time. These initiatives are a testament of the deep links between the SDGs and the realization of disaster-resilient society, the revitalization of local communities, and Public-Private partnership. The implementation

Japan's Voluntary National Review
Report on the implementation of the Sustainable Development Goals

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Japan, Committed to SDGs

33

本日の講演内容

1. SDGsの概要と日本の実施状況
2. 内子町と持続可能なまちづくり
3. 四国および内子町におけるSDGsの取り組み
4. 地方自治体でSDGsに取り組む意義と課題

地方自治体でSDGsに取り組む意義とは？

地域で…

- 持続可能な地域づくり、地域活性化に向けた既存の施策や取り組みを見直し、改善するための枠組み、ツールとして活用できる
- 縦割りの仕組みを超え、横断的で統合的な取り組みを促進できる
- 行政内、行政と自治会、住民間の対話や学びのプロセス、住民参加を促せる
- 多様なセクターやステークホルダーとの連携機会を増やせる

外に向けて…

- SDGsという共通のキーワードを使うことで、国際・国・地域などあらゆるレベルの発信力を強化し、持続可能な地域づくりの取り組みを広く発信・共有できる

35

次のステップと課題は？

◆ 内子町では、平成31年の総合計画の見直し時に、SDGsを反映する予定

- 既存の施策・取り組みとSDGsをつなぎ、ギャップを洗い出し、目標やアプローチを見直し、指標を設定する作業が想定される

◆ 地方自治体における取り組みの課題は…

- 行政職員含め、どのように地域に普及・浸透を図り、地域住民を巻き込み、「自分ごと」にしていくのか？
- 予算や人的リソースをどのように確保するのか？ ⇒より長期的な人材育成も視野に

◆ カギは…

- ファシリテーター／伴走者の存在
⇒ SDGsと地方自治体をつなぎ、多様なステークホルダーの連携を促進するNPOや中間支援組織をサポートし、キャパビルや人材育成を強化
- ネットワークや情報へのアクセス
⇒ 地域間をつなぐダイナミックなネットワーク構築や情報共有、中央からの情報提供

◆ キモは…

- SDGsの原則の取り込み
⇒ SDGsとのマッピングにとどまらず、SDGsの原則を課題横断的に適用し、プロセスやガバナンス自体に変革をもたらすこと


統合性

包摂性

参加型

透明性

36



ご清聴、どうもありがとうございました

horie.yumiko@savechildren.or.jp